

「ほぼ無臭。稼動音は静かで、ごみ出しも簡単」と高評価！
『マイベスト』発表の生ごみ処理機のおすすめ
人気ランキングで、GD-28Aが第1位を受賞



ダイニチ工業株式会社(本社：新潟県新潟市、代表取締役社長：吉井 唯)の家庭用生ごみ乾燥機 GD-28Aは、国内最大級の商品比較サービス『マイベスト』(株式会社マイベスト)発表の「生ごみ処理機のおすすめ人気ランキング【2026年4月】」で第1位を獲得しました。

ほぼ無臭と高評価。【ニオイの少なさ】でNo.1を獲得！

『マイベスト』が定義するベストな生ごみ処理機は「ニオイが少なく稼動音が小さい、手入れが簡単な生ごみ処理機」。選ぶ際に欠かせない4つのポイントで比較して徹底検証した結果でランキングしています。

当社の家庭用生ごみ乾燥機 GD-28Aは、【ニオイの少なさ】でNo.1を獲得し、「処理中も処理後もほぼ無臭。稼動音は静かで、ごみ出しも簡単」と高評価。おすすめスコア☆4.82の評価で、全18商品の中で第1位となりました。



👑 ニオイの少なさ No.1 ★5.00

ゴミの出しやすさ ★4.83

使いやすさ ★4.45

静かさ ★4.94

[ランキング詳細](#)



マイベストによる生ごみ乾燥機 GD-28Aの評価

「静音性やニオイの少なさを重視しつつ、毎日の生ごみ処理を手軽に済ませたい人におすすめの1台」と、高評価をいただきました。

- ・処理中から処理後まで、排気口に近づいてやっと感知できるレベルの微弱なニオイで、ほぼ無臭といえる性能を発揮
- ・ニオイはキッチンに設置しても気になりにくく、来客時でも安心して使える
- ・稼動音も非常に静かで、深夜の運転も気にならない静音性を備えている
- ・バスケットは軽量で取っ手付きのため取り出しやすい印象。投入口の広さが15.5cmあり家庭の一般的な生ごみをそのまま投入できるごみの出しやすさも強み
- ・分別や攪拌は不要で投入前の準備は最小限で済む

業界初^{*}のポリ袋ホルダーを採用。だから手を汚さずに捨てられる

生ごみ乾燥機 GD-28Aの最大の特徴は、業界初^{*}のホルダー式の投入容器を搭載していること。ポリ袋を取り付けたままホルダーを乾燥機にセット、乾燥後はホルダーからポリ袋ごと取り外せるため、生ごみに直接触れずに捨てることができます。

※ 家庭用生ごみ処理機（一般財団法人 電気安全環境研究所によるS-JET認証）において。2025年8月21日現在。



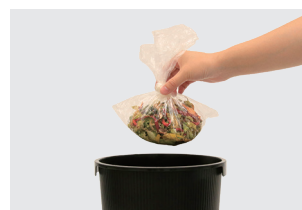
ポリ袋を取り付けたホルダーに生ごみを投入



ホルダーを本体にセットして乾燥スタート



乾燥後、ホルダーからポリ袋ごと外す



取り外したポリ袋ごとごみ箱に捨てる

熱風による乾燥で生ごみを約1/5^{*}まで減量

独自の温風送風技術を用いて、効率的に乾燥させることで、生ごみを約1/5^{*}まで減量します。量が減ることでごみ捨て回数の削減、指定ごみ袋の節約につながります。

※ 数値は当社試験条件による結果。



乾燥前



乾燥後

快適な生活空間をめざして消臭にも静音にもこだわりました

活性炭入りの脱臭フィルターを搭載し、嫌なニオイを抑制します。運転時でもニオイは気になりません。

また通常運転では静かな図書館と同水準の36dB。一時静音モードではささやき声と同水準の32dB。一時静音モードを使用すれば就寝時でも穏やかに過ごせます。

* 運転初期は運転音が大きくなる場合があります。

置き場や利き手を選ばない前開き扉を採用

置き場や利き手を選ばない前開き扉を採用。縦35.9cm×横21.6cm×奥行25.4cmのコンパクトサイズで、キッチンボード内にも設置可能です。洗練されたフォルムで、電子レンジやオーブントースターと並んでも自然に調和します。



ご購入者様の声

特にイカや魚などの内臓はニオイがキツイので外のごみ箱に入れてもニオイがしてご近所に気をつかうため、乾燥させることでニオイが大幅に少なくなり大変助かっています。また、すごく静かで気に入ってます。（大阪府 ご購入者様）

まず日本製であること、場所を取らずスマートなこと、操作が簡単ニオイが無くなること、そのすべてを叶えてもらい大変満足しています。今年の夏も安心。ホントに買ってよかったです。（福岡県 ご購入者様）

「お客様の豊かな暮らしのために」開発者が語る製品開発の裏側

一 一般的な生ごみ乾燥機はバスケットタイプが多く、別容器に溜めたごみを、専用容器に移し替えて利用するケースが多いです。その際、「容器から容器への移し替え作業が手間」「移し替え作業中に生ごみに触れて手が汚れる」「汚れた容器を洗う手間」などの不満が生じます。

これらを解決するためにポリ袋ホルダーをそのまま乾燥できないかという検討が始まりました。



「ゼロからつくる製品は、知れば知るほど新しい発見があった」と話す、開発責任者の小田川 健一

ポ リ袋ホルダーごと乾燥させるためには「ポリ袋を溶かしてはいけない」「ポリ袋の中のごみが生乾きではいけない」など、達成しなければならない課題がたくさんありました。

課題の達成が困難で夢半ばに見送った仕様もありましたが、ポリ袋ホルダーなくしてこの製品は成り立たないという強い思いで難題に立ち向かい精密な温風コントロール技術を確立しました。



こだわりのポリ袋ホルダー

こ の精密な温風コントロール技術は、暖房機開発で培った技術を活用しました。温度プロファイルから、乾燥終了のタイミングを的確に捉えます。

また、運転音の制御には加湿器開発で培った静音技術を活用しました。標準モードでは約36dB、運転音を一時的にセーブする一時静音モードでは約32dBで運転が可能で、就寝前に稼働させても運転音を気にせず使用できます。

生 ごみ乾燥機は、生ごみが乾いていることが絶対条件となる一方で、電力の無駄使いは避けたいという思いがあり、運転終了のタイミングを的確に判断する制御構築に苦労しました。

環境のバラツキから生ごみの量まで、あらゆるパターンを想定して実験を重ねた結果「乾いた」という状態を捉えることができ、満足のいく制御に仕上がったと感じています。



お客様の豊かな暮らしのために。

Dainichi

— PRODUCT MOVIE —